

# 東燃ゼネラル石油株式会社 2010年12月期第3四半期決算概要 および通期業績予想の修正

2010年11月12日



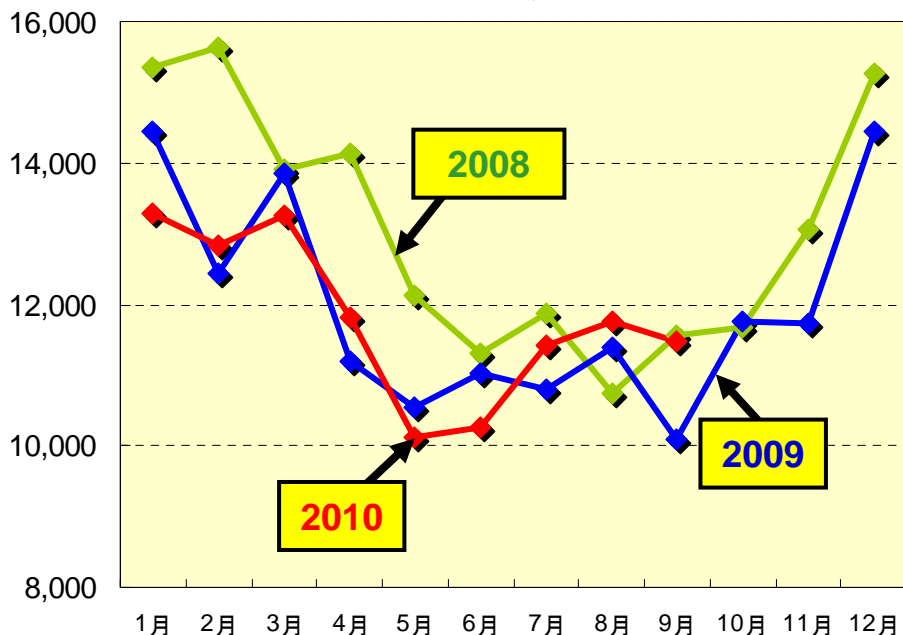
**Tonen General**

## 見通しに関する注意事項

この資料に記載されている当社および当社グループ各社の現在の計画、見通しに関する事項は、日本および世界経済の動向、原油価格、円ドルの為替レート、需給の変動に大きく左右される業界の競争状況などにより影響を受けます。これらの影響により、実際の業績は本資料で記載した見通しとは大きく異なる可能性があることにご留意ください。

- 2010年7-9月期の石油製品マージンは、高水準で推移し前年10-12月期から継続して改善基調
  - » 夏場の猛暑に支えられた好調な国内石油製品需要
  - » 石油製品輸出マージンは依然弱含みであるものの、2010年初頭から回復基調
- 基礎石油化学製品マージンは、4-6月期、7-9月期ともに下落したものの9月には若干の改善
- 石油業界各社は、エネルギー高度化法に関する省令等を順守するための計画を10月末に経済産業省に提出

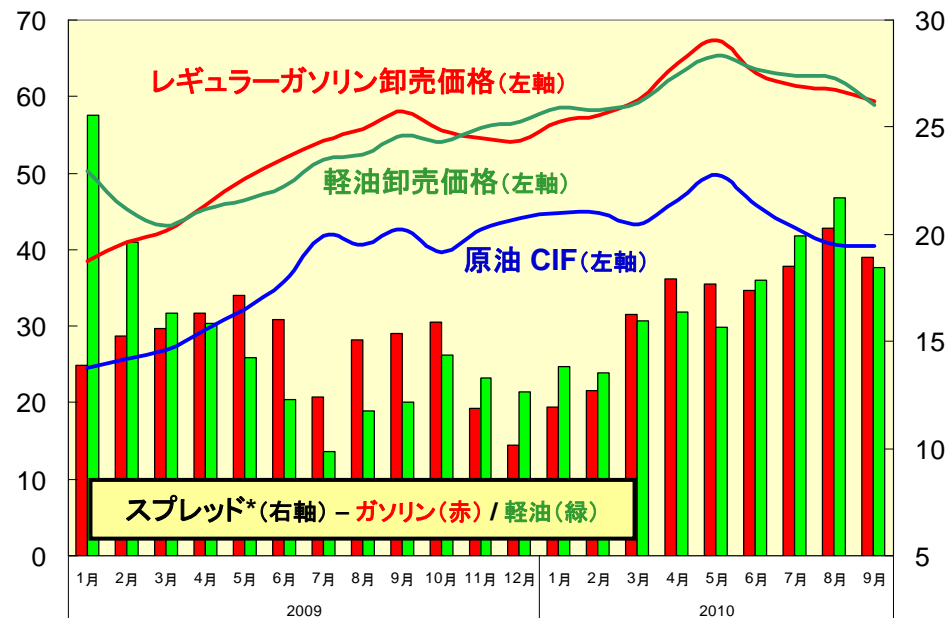
**国内石油製品需要の推移(2008年～)**  
(主要5油種\*, 千KL)



\* ガソリン/軽油/灯油/A重油/C重油

出典: 経済産業省「資源エネルギー統計」

**原油と石油製品価格の推移(2009年～)**  
(原油CIFとガソリン/軽油卸売価格, 円/リットル)



\* スプレッド: 卸売価格 - 原油CIF

注: 石油連盟ならびに石油情報センターのデータに基づいて作成

# 決算ハイライト



- 2010年1-9月期の営業利益は412億円(前年同期比548億円の改善)
- 在庫関連利益、原油コスト認識時点の差による影響額を調整後の営業利益は、主に7-9月期の石油部門営業利益が改善したことにより、前年同期比190億円の増加
- 特別利益には、1-3月期に計上したバッテリーセパレーターフィルム(BSF)合弁会社設立に伴う利益が含まれる

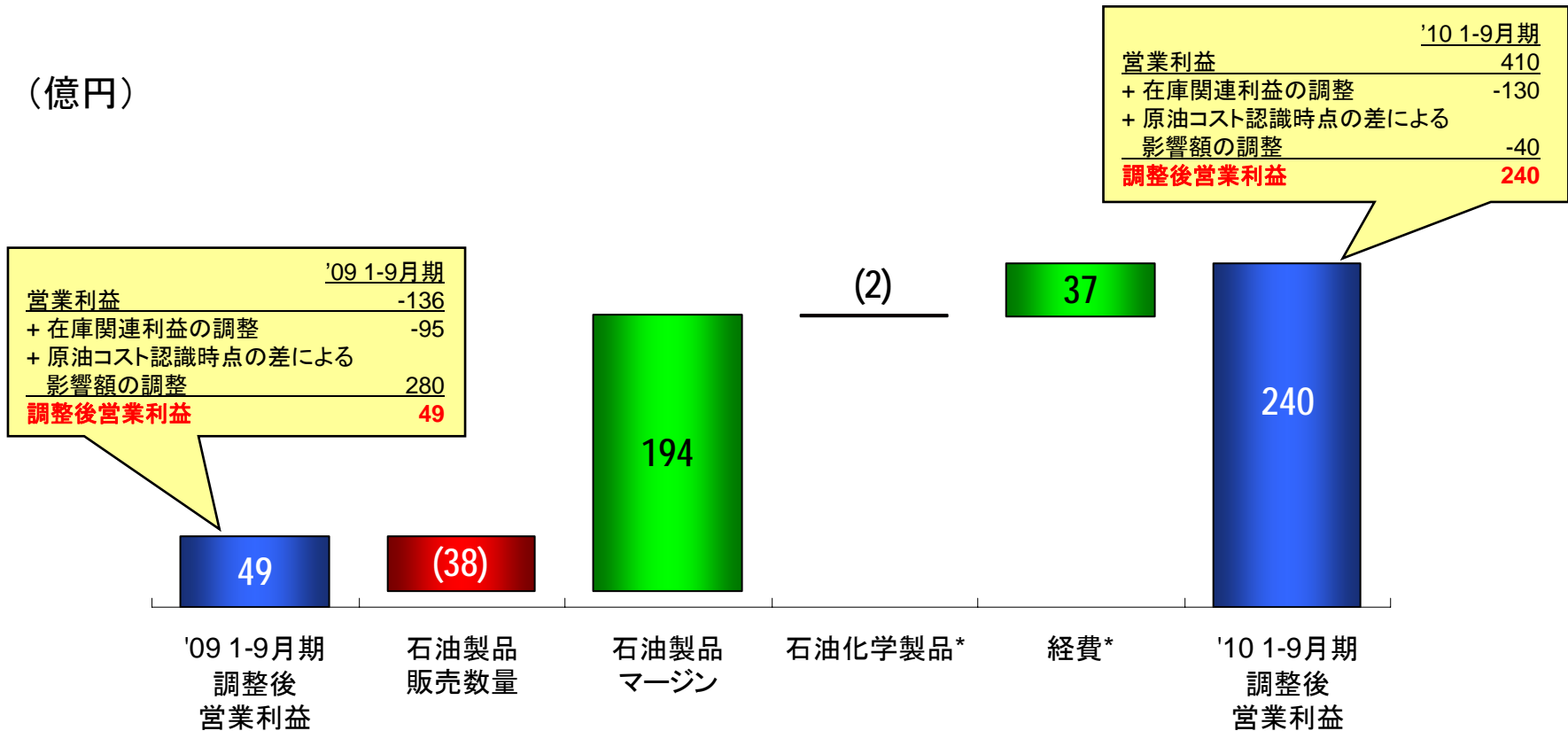
(億円)	'09 1-9月期	'10 1-9月期	増減
売上高	15,247	<b>17,806</b>	2,559
┌ 営業利益	-136	<b>412</b>	548
経常利益	-120	<b>431</b>	551
特別利益	-12	<b>195</b>	208
当期純利益	-74	<b>458</b>	533
-----			
┌ 在庫関連利益の調整	-95	<b>-133</b>	-38
┌ 原油コスト認識時点の差による影響額の調整	280	<b>-40</b>	-320
➔ <b>調整後営業利益</b>	<b>49</b>	<b>239</b>	<b>190</b>
└ 石油部門	22	<b>217</b>	195
└ 石油化学部門	27	<b>23</b>	-5

# 営業利益増減の要因分析(1)

## [1-9月期連結営業利益、前年同期比]

- 1-9月期の石油部門調整後営業利益は、7-9月期の高水準の精製マージンと堅調な国内石油製品販売に支えられて、前年同期比改善
- 石油化学部門は、7-9月期に悪化したものの、前年には1-3月期の「需要低迷期」があったことから、結果的に1-9月期営業利益は前年同期比でほぼ同水準

(億円)

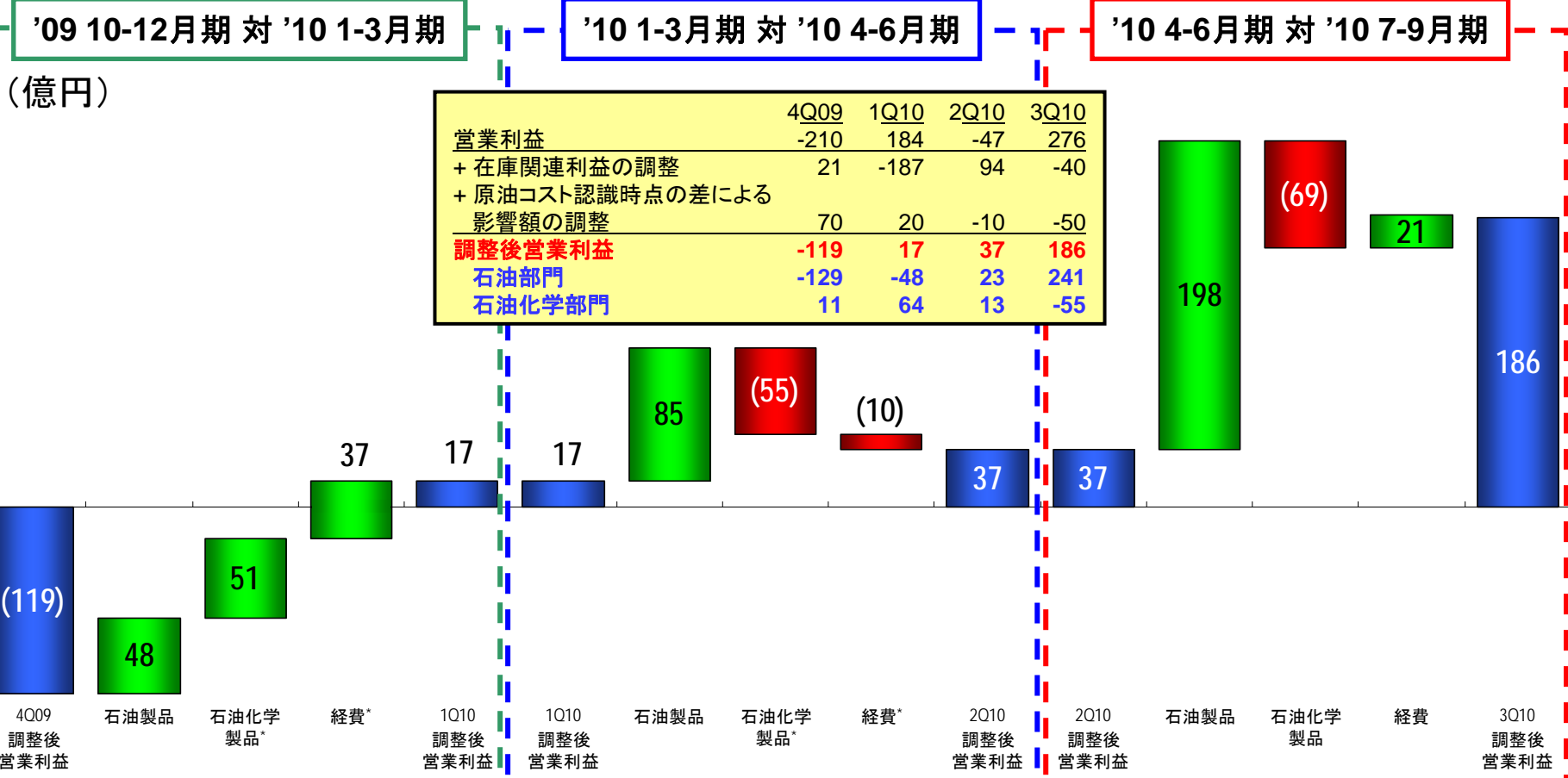


\* 石油化学製品と経費の項目からはBSF合併会社設立に伴う影響は除外

# 営業利益増減の要因分析(2)

## [7-9月期連結営業利益、前年10-12月期 / 1-3月期 / 4-6月期比]

- 7-9月期の石油部門営業利益は、前年10-12月期から継続して改善
- 石油化学部門営業利益は、東燃化学川崎工場の定期修理および主として芳香族類の-margin悪化に伴い下落



\* 石油化学製品と経費の項目からはBSF合弁会社設立に伴う影響は除外

# 販売数量

- 1-9月期の石油製品国内販売数量は、1-6月期に前年同期比で減少したものの、好調な国内需要に支えられて7-9月期には増加に転じた結果、ほぼ前年同期並みの実績
- 主に1-3月期の輸出マージン環境が厳しかったことおよび4-6月期の川崎製油所定期修理の影響により、製品輸出数量は減少
- 7-9月期の東燃化学川崎工場定期修理の影響により、オレフィン類の販売数量は対前年同期比減少

## 石油製品\*

(千KL)

	'09 1-9月期	'10 1-9月期	増減	国内全体 増減 ****	
日本国内での販売	ガソリン	7,797	7,750	-0.6%	+1.8%
	灯油	1,873	1,781	-4.9%	+3.4%
	軽油	2,129	2,190	+2.8%	+1.9%
	A重油	1,462	1,417	-3.1%	-3.3%
	C重油	1,040	1,208	+16.1%	-6.2%
	主要5油種合計	14,301	14,345	+0.3%	+0.4%
	LPG その他	1,754	1,803	+2.7%	
	小計	16,055	16,147	+0.6%	
	輸出**	4,327	3,361	-22.3%	
	その他***	2,566	2,518	-1.9%	
石油製品合計	22,948	22,026	-4.0%		
設備稼働率 (常圧蒸留装置ベース)	75%	70%		76%	

注記:  
 \* 連結ベース、バーターを除く  
 \*\* 保税販売を除く  
 \*\*\* 潤滑油、原油、国内のエクソンモービルグループ内の転送取引などを含む  
 \*\*\*\* 出典: 経済産業省「資源エネルギー統計」

## 石油化学製品 (連結ベース)

(千トン)

オレフィン類他 (東燃化学分)	1,196	1,128	-5.7%
芳香族類他 (東燃ゼネラル分)	592	595	+0.5%
石油化学製品合計	1,788	1,723	-3.6%

# 業績予想の修正 [連結]

- 2010年通期連結営業利益の予想を390億円に上方修正
  - » 7-12月期の石油精製マージンは改善、石油化学部門の営業利益悪化で一部相殺
  - » 1-9月期に計上した133億円の在庫関連利益は、期末には20億円に減少すると想定
  - » 10月の原油価格上昇を反映して、10-12月期の原油コスト認識時点の差による影響はマイナス20億円、通期ではプラス20億円が残ると想定
- 1株あたり年間38円の配当見通しは変更なし

(億円)	2010年業績予想			実績 '10 1-9月期
	8月公表	今回修正*	増減	
売上高	24,000	<b>24,000</b>	-	17,806
営業利益	140	<b>390</b>	250	412
経常利益	160	<b>420</b>	260	431
特別損益	200	<b>200</b>	-	195
当期純利益	300	<b>460</b>	160	458
<hr/>				
在庫関連利益の調整	0	<b>-20</b>	-20	-133
原油コスト認識時点の差による				
影響額の調整	10	<b>-20</b>	-30	-40
調整後営業利益	150	<b>350</b>	200	239
石油部門	60	<b>320</b>	260	217
石油化学部門	90	<b>30</b>	-60	23

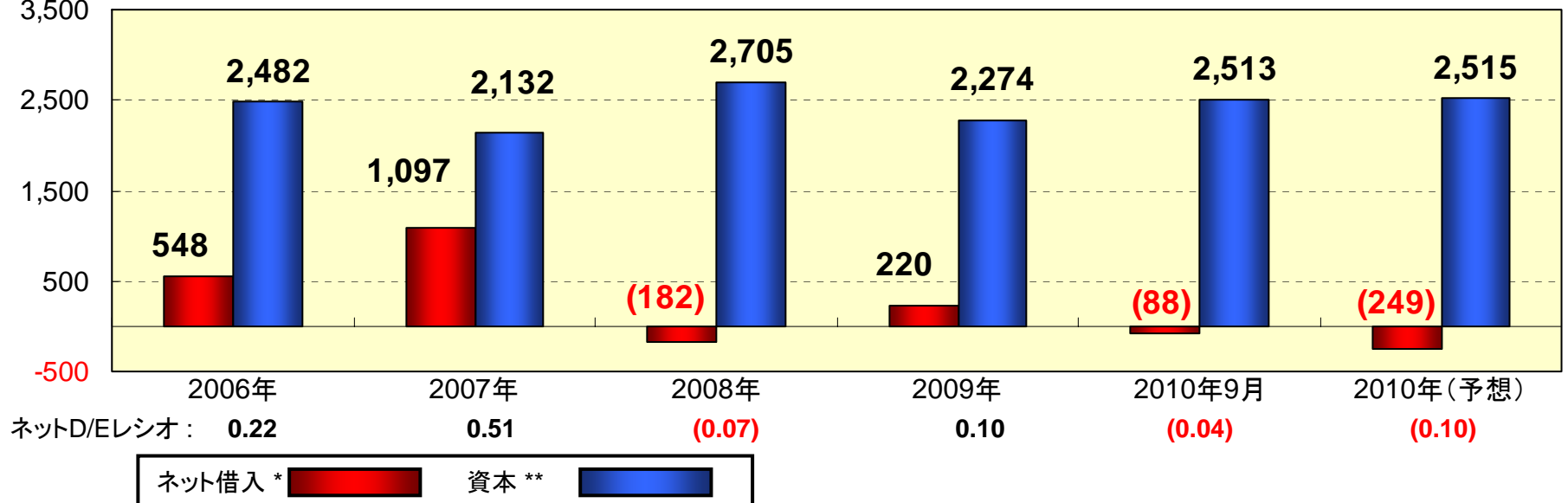
\* 2010年10月平均ドバイ原油価格80ドル/バレル、為替82円/ドルを前提に算出

# キャッシュ・フロー、D/Eレシオ [連結]

(億円)	'10 1-9月期
<b>営業活動</b>	<b>671</b>
税引前純利益	627
法人税等の支払	-29
減価償却費	202
運転資本の変動等	-129
<b>投資活動</b>	<b>-142</b>
<b>財務活動</b>	<b>-530</b>
借入金の減少	-321
配当金の支払	-209

- 1-9月期のフリー・キャッシュ・フロー(営業活動と投資活動によるキャッシュ・フローの合計)は、年間配当金支払金額の2.5倍に相当
- 競争力のある強固な財務体質を維持

(億円) 期末のネット借入および資本(2006年~2010年予想)



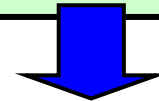
\* 現金・貸付金等の影響を除いた借入金 \*\* 少数株主持分を除く純資産



# 在庫評価方法の変更

- 後入先出法が今年度限りで廃止されるため、当社は2011年1月から在庫評価方法を変更する

	現行	変更後
評価方法	後入先出法	総平均法
評価期間	年次	月次
原油コスト認識時点	積荷時点でコスト認識	荷揚げ時点でコスト認識



**原油コスト認識時点の差による  
影響は解消**

- » 2011年1-3月期から新評価方法にて決算開示
- » 業界他社で採用されている評価方法とほぼ同様

## ■ 損益への影響額

- » 2011年に計上される利益は、来年の価格水準および在庫数量等により決まるため、現時点では未確定
- » 価格水準及び在庫数量等が本年9月末時点と同様の水準と仮定すると、この変更により来年度中に順次認識される税引前利益の増加は合計で1千億円程度と想定

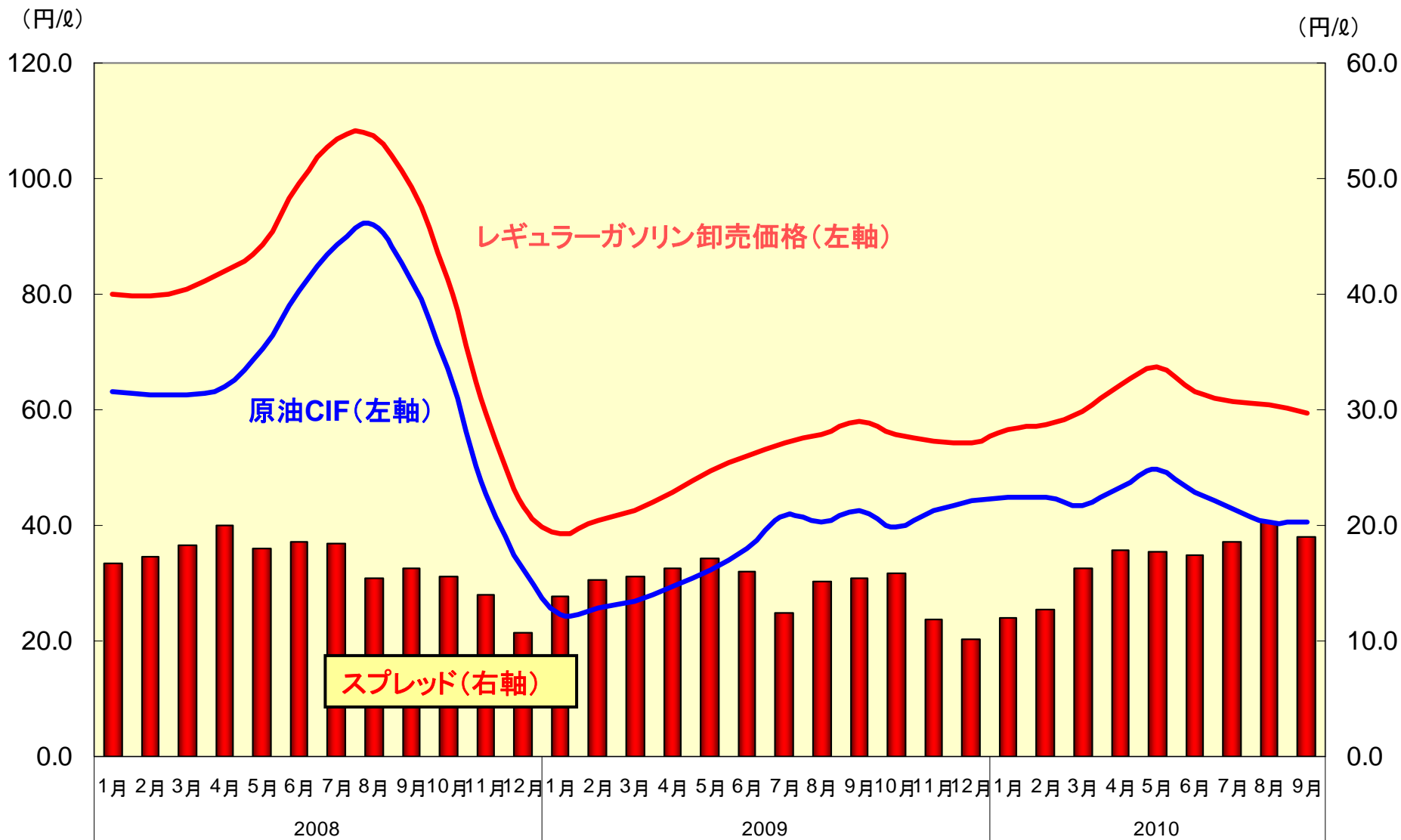
## ■ 会計上の取り扱い

- » 後入先出法から総平均法への変更に伴う利益および総平均法による通常の在庫関連損益は、営業利益として計上し、その総額を開示する予定

## 參考資料

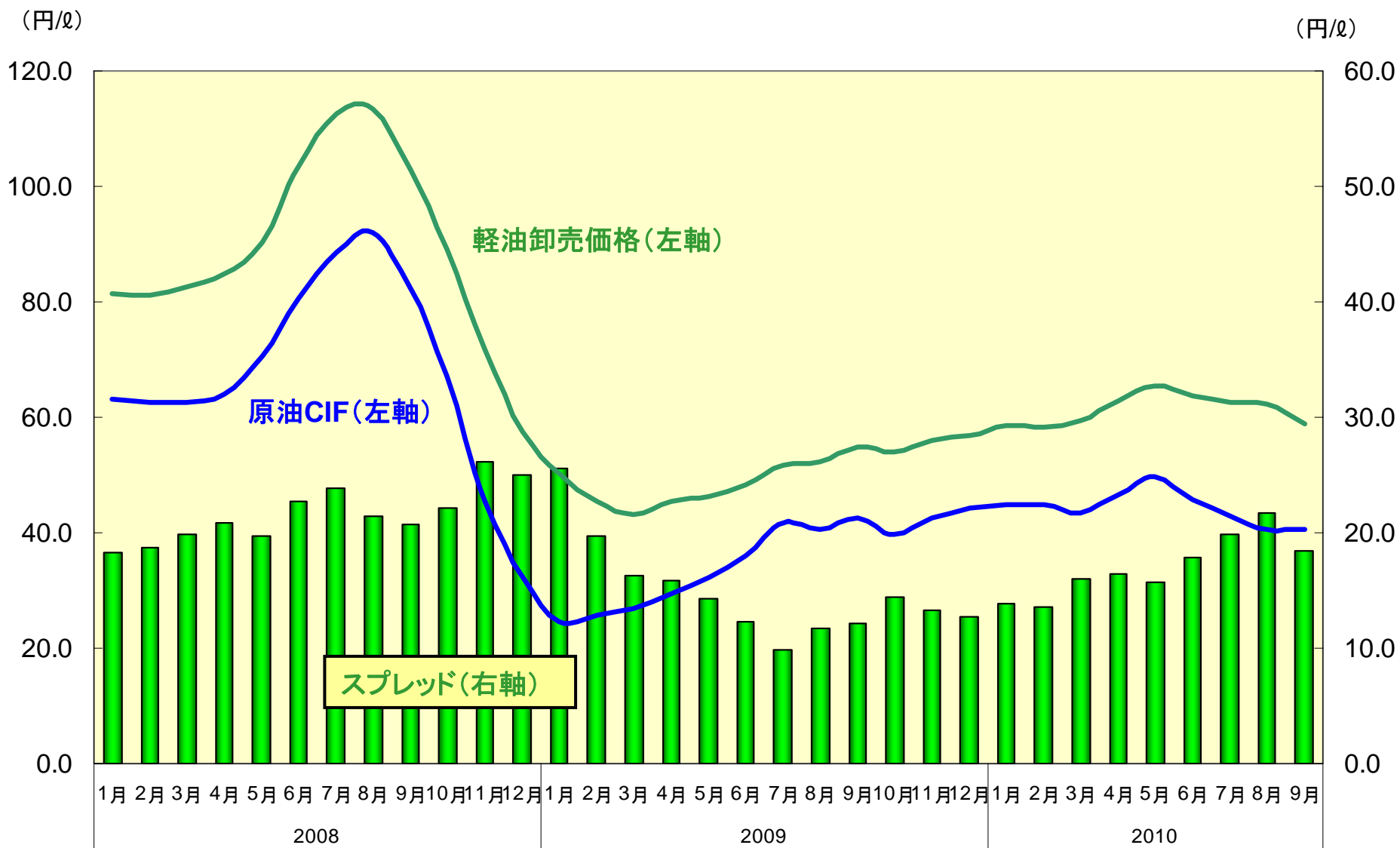
---

# 価格スプレッド（ガソリン卸売価格－原油CIF）



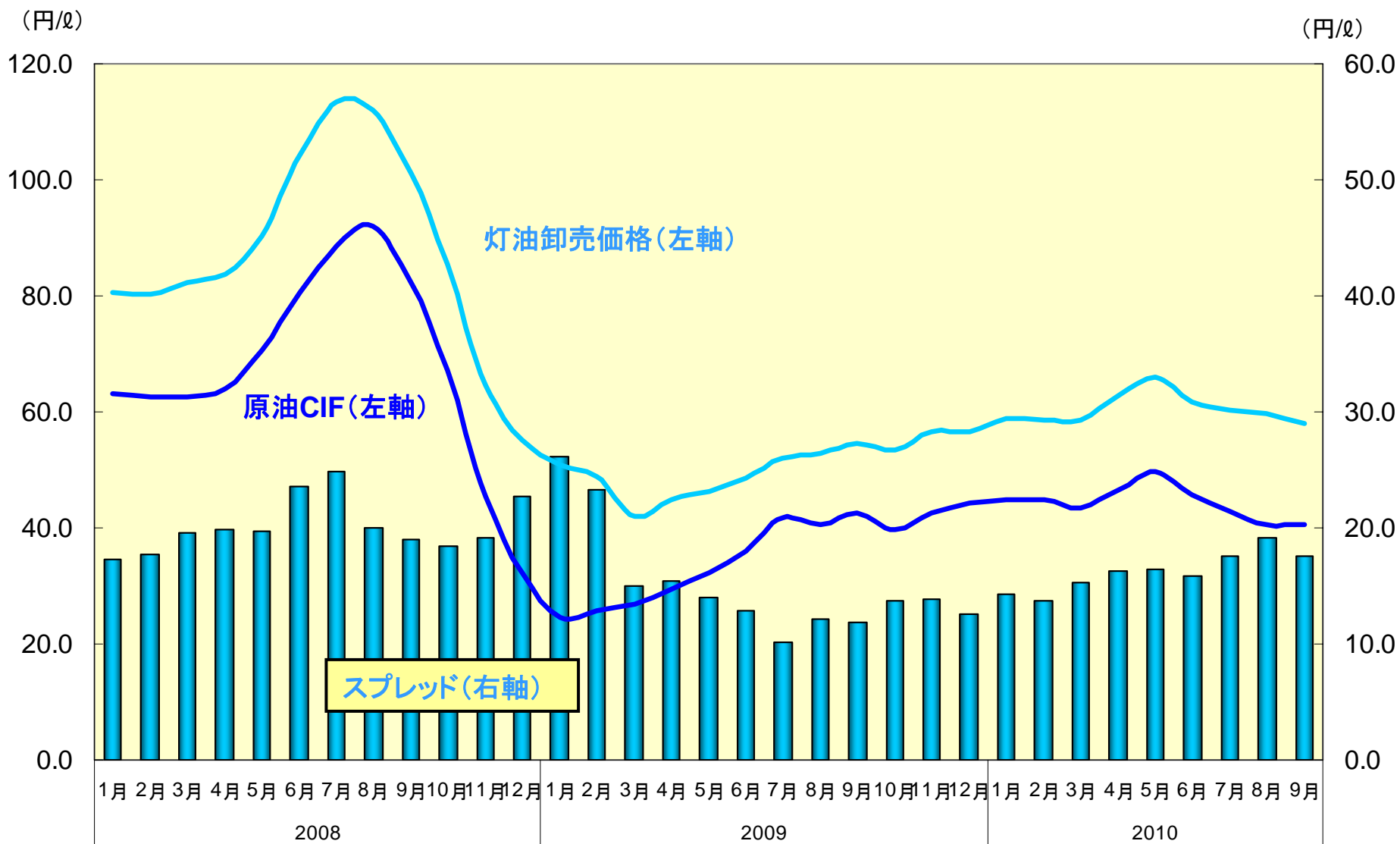
注: 石油連盟ならびに石油情報センターのデータに基づいて作成

# 価格スプレッド（軽油卸売価格 – 原油CIF）



注: 石油連盟ならびに石油情報センターのデータに基づいて作成

# 価格スプレッド（灯油卸売価格 – 原油CIF）



注: 石油連盟ならびに石油情報センターのデータに基づいて作成

# 営業利益の詳細（2008年～2010年7-9月期）



TonenGeneral

## 2010年

(単位: 億円)

営業利益内訳	'10 1-3月期	'10 4-6月期	'10 7-9月期	'10 10-12月期	'10 通期
石油部門 (実質)	-48	23	241		
石油化学部門	64	13	-55		
在庫関連利益	187	-94	40		
原油コスト認識時点の差による影響	-20	10	50		
総合計	184	-47	276		

'10 1-6月期	'10 1-9月期
-25	217
78	23
93	133
-10	40
136	412

## 2009年

営業利益内訳	'09 1-3月期	'09 4-6月期	'09 7-9月期	'09 10-12月期	'09 通期
石油部門 他 (実質)	225	-74	-130	-129	-108
石油化学部門	-23	21	29	11	38
在庫関連利益	18	54	23	-21	74
原油コスト認識時点の差による影響	-90	-240	50	-70	-350
総合計	131	-239	-27	-210	-346

'09 1-6月期	'09 1-9月期
151	22
-2	27
72	95
-330	-280
-109	-136

## 2008年

営業利益内訳	'08 1-3月期	'08 4-6月期	'08 7-9月期	'08 10-12月期	'08 通期
石油部門 他 (実質)	-114	-10	-149	355	82
石油化学部門	93	86	70	-110	139
在庫関連利益	523	-327	130	-186	141
原油コスト認識時点の差による影響	15	-400	430	700	745
資産売却に伴う利益	110	-	-	-	110
総合計	627	-650	481	760	1,217

'08 1-6月期	'08 1-9月期
-124	-273
179	249
196	326
-385	45
110	110
-23	458